

議員と語る会 レポート(令和7年11月29日開催)

日時: 令和7年11月29日 13:30~14:30(昼の部)

場所: 伊井公民館

参加議員: 笹原、北浦、三上、中垣内

参加市民: 2名

* 夜の部(吉崎公民館)については参加者0名だったため記述なし

市民からの主な意見と議論

(1) 議会活動の透明性と情報発信

市民からは、過去の議員の活動が「全く見えていなかった」という厳しい意見が出され、活動が見えなければ民間人は支持しないのは当然であり、早急に活動を市民に見える形にする必要があると指摘された。

また、議会は行政の監視役として、本会議や委員会でしっかりと質疑を行い、特に賛成討論や反対討論を行うことで議論を盛り上げ、市民の関心をつけるべきだという要望があった。

情報発信に関して、議員個人の SNS だけでなく、議会として統一的な SNS を確立し、議会の状況(行政視察や委員会など)を発信すべきだという意見が出された。さらに、YouTube での議会生中継についても、休憩中の再開時間を明確にするなど、市民の関心を引きつけるための改善(放送開始を早める、音楽を流すなど)が必要であると提言された。

(2) 地域課題への対応

具体的な地域課題として伊井地区のように地元に議員がいないと要望が届きにくいという問題が挙げられた。

また、公民館で水漏れが発生しているが、「お金がない」ために修繕できず、管理人が雨のたびに掃除をしているという現状が報告された。議員からは、行政に報告し、所管課(教育課長または文化課長)とともに現場を確認するとの応答があった。

その他にも、伊井から矢地へ抜ける橋を渡った先の道路の大きな段差が長年直されない問題、災害時に集まる公民館の駐車場ですら、生活道路優先のため除雪の優先順位が低くなる問題が指摘された。

(3) 制度改革に関する議論

議員定数 定数を削減することは、伊井地区のように地域の意見を吸い上げる人がいなくなるという「悪い循環」を生む。削減を行うのであれば、市民の声を汲み上げる仕組みをセットで整備することが不可欠である。

政務活動費 市民からの理解を得るための前提として、まず議会が徹底的に情報公開を行い、市民に活動内容が知れ渡り、「大変なんだな、仕方ないな」と理解されて初めて導入すべきだという意見が出た。

導入する際の運用方法として、不祥事を避けるため、議員が実費で支払った後、領収書に基づき精算する後払い形式を望む意見が議員側から示され、市民側もこれに賛成した。

作成者 三上 寛了